



第1地域 恒久基金/大口寄付アドバイザー 森川 昭正（仙台宮城野 RC）

去る 2025 年 4 月 27 日～29 日の3日間、エバンストンにある国際ロータリー本部において、2025 年度グローバル・フィランソロピー・セミナー（GPS ;Global Philanthropy Seminar）が開催されました。この GPS は新しく就任する E/MGA（恒久基金/大口寄付アドバイザー）及び EPNC（ポリオ根絶コーディネーター）を対象としたセミナーで、今回は世界各地域の 2025-26 年度から就任する次期 E/MGA;20 名、次期 EPNC;16 名が参加しました。

E/MGA がロータリーの地域リーダーの一つの役目として初めて任命されたのは 2013 年です。その後、日本の 3 地域で基本的に 3 年おきに1名ずつが任命されてきました。第1地域では私が5代目の E/MGA となります。

今回のセミナーは、自身がガバナーエレクトとして参加した国際協議会以来のグローバルなセミナーで、かつ、世界のロータリーのトップリーダーの多くに出会い、交流するという大変貴重な経験でした。

ロータリー会員であれば多くが憧れるロータリー発祥の地シカゴ近郊にある”ロータリー国際本部”。

ポール・ハリスら4人が初めて会合を開いた部屋が再現された One Rotary Center の 1 階にある当時のポール・ハリスの事務所前には、ポール・ハリスの銅像が出迎えてくれている様に立っていました。

2 日半の GPS では、E/MGA として今後どのように活動していくのか、いかなければならないのかを学びましたが、大きく以下の3つのことを学びました。

その一つはチームワークの大切さです。恒久基金/大口寄付の寄付者に限らず、財団への寄付への理解、促進するためには担当する地域、地区の RMC、RRFC、EPNC、RPIC、地区ガバナー、地区財団委員長、恒久基金/大口寄付小委員会委員長などとの連携が必要であり、また、前任者や他地域の関係者との連携も大事であることを学びました。二つ目としてはエンドポリオ、恒久基金/大口寄付への理解促進のためにはストーリーが大切であるということです。自分の経験から自分の言葉で伝えることの大切さを学びました。そして3つ目はロータリーが提供しているツールを十分に利用することです。E/MGA として閲覧権限を与えられるデータについても関係者と情報を共有しつつ、寄付者へのアプローチに繋げられるように検討していきたいと考えています。

また、GPS 全体として感じたことは、主催している側も参加している側も、みんながフレンドリーで自由に発言でき、共感する雰囲気が出来上がっていたことです。そのお陰で、自分なりに各セッションの討議において積極的な発言ができたと思います。

このセミナーで学んだことを活かし、3 年間の責務を全うできるように務めたいと考えていますので、どうぞ皆様のご指導ご鞭撻、そして何よりも大口寄付へのご協力をお願いいたします。





私たちの生き方のエンブレム

第2地域 ロータリー公共イメージコーディネーター 神野 正博（七尾 RC）

去る7月13日(日)に、毎年恒例の3地域合同公共イメージ向上セミナーを実施し、100人以上の各地区のリーダーに参加いただきました。信頼の証としてのエンブレム、すべてのロータリー活動が公共イメージ向上につながることを、そして広報と公共イメージ向上の違いなどのお話と、公共イメージを向上する5つの事例の発表をいただきました。終了後のアンケートで、全体としては高評価であったものの、フリーコメントで、「地区の活動の参考になるように事例を多くしてほしい」旨の内容が多く、今後の参考にしていきたいと思えます。

このセミナーを踏まえ、公共イメージ向上を一言で言えないか考えて見ました。ロータリー会員の皆様は、ロータリーにどんな人がいて、そして、成りたいロータリー会員像をイメージできるはずです。しかし、一般の人々はもちろん、これからロータリークラブに入会しようとする人々にそれが伝わっているのでしょうか。そして、ロータリーのエンブレムを見たときに人々は何をイメージできるのでしょうか。人々は、ロータリーを世界で、日本で、地域でよいことをしている組織と認識してくれているのでしょうか。ポリオ根絶を目指す、平和を構築する、DEIを大切にする、環境問題を考える、貧困問題を考える、青少年をエンカレッジしている、海外からの留学生を支援している、リーダーシップを涵養しているなど、、、の組織と認識してくれているのでしょうか。ロータリーのエンブレムを見たときに、信用・信頼という言葉が出てくるのでしょうか。

もし、そうではないのならば、それを作り出すための奉仕と公共イメージ向上戦略が必要になるに違いありません。なぜならば、私たちはロータリー会員として、この組織に所属している意義と誇りを持ちたいからなのです。

そういった意味で、私たちが創り出さねばいけないのは、ロータリーのエンブレム＝信頼の証なのではないでしょうか。あのエンブレムのラベルボタン、旗を見たら「信頼に足る人たちだ。」と認識されるために、私たちはイメージを向上させる取り組みを人に見せ、一人一人が仕事で、日常で、そして奉仕で実践すべきなのです。まさに私たちの生き方、そのものになるのかもしれません。





第3地域 ロータリー会員増強コーディネーター 中川 基成（あすか RC）

これをお読みのシニアロータリー会員の皆様が、あらためてロータリーのことをあまり知らない方々にロータリーへの入会を勧誘される場合どのようなお話をされるでしょうか？ また、入会したもののロータリーに馴染まず退会を検討される方々には、どのような話をされるでしょうか？ どちらも特別な個人事情もありますので、簡単な話ではないと思います。ましてや、ロータリーに対して誤解や思い込みなどがありますと、それを解いて正しく理解していただくのに苦労します。

その際に、最も大事にしたい基本的考え方は、つまるところ Enjoy Rotary ではないかと思っています。では、ロータリーを楽しむとは具体的にどういうことでしょうか？

私は、ロータリーを学び、行動し、発信することを下の循環図のようにロータリー活動の中にとどまらず、それぞれの職場や家庭や生活の中で回していくことであり、ロータリーを楽しみつつロータリーの中核的価値(Core Values)が増大していくことと考えます。(この Core Valuesこそ正しく理解する必要があるのですが、ここでは紙面の関係上、私の解釈は省きます。)

ロータリーを通じて人としての生き方を学び、様々な奉仕を通じて地域社会や世界の平和に貢献して、ロータリーの価値に共感する仲間を増やしてロータリーの奉仕の輪を広げていくことができればロータリー活動は何と楽しいことでしょうか。



もう一つ、ロータリーを語るうえで大事にしたいことは、ロータリーのビジョン声明をよく味わい、その重要性を理解することだと思います。

Vision Statement:

Together, we see a world where people unite and take action to create lasting change—across the globe, in our communities, and in ourselves.

「私たちは、世界で、地域社会で、そして自分自身の中で、持続可能な良い変化を生むために、人びとが手を取り合って行動する世界を目指しています。」

今年の会長メッセージ “Unite for Good” はこのビジョンの核心を端的に言い表したものです。

自分自身や自分の所属するクラブや会社・組織の中で良い変化を生み出すことに取り組むことで、より魅力あるロータリーを体現できるならば、それに共感する人々に対して、ロータリークラブへの入会勧誘や退会防止にも説得力を持って効果が期待できるのではないのでしょうか。

いずれもロータリーを語るうえで、きわめてシンプルで基本的なことですが、改めてその重要性を再認識したいものです。